

新型コロナウイルスに負けずに 小児医学を発展させよう



第125回 日本小児科学会会頭に就任して

すべての子どもたちの幸せな未来のために



福島県立医科大学小児科
第125回日本小児科学会学術集會会頭
細矢 光亮

第125回日本小児科学会学術集會の会頭を仰せつかりました、福島県立医科大学小児科の細矢光亮です。日本小児科学会学術集會は、日本を6ブロックに分けて順番に開催地区を換えておりますが、2022年に開催される第125回は北海道・東北ブロックが担当する番にあたり、前回は北海道で開催されましたことから125回は東北地区で開催することになりました。ご存知のように、東日本は2011年3月11日に巨大地震に見舞われ、特に東北の太平洋沿岸部は巨大津波に襲われました。更に福島県では、地震の衝撃と津波の浸水により全電源を喪失した東京電力福島第一原子力発電所の事故により、わが国ではこれまで経験のない規模の原子力災害も重なるという複合大災害を経験することになりました。そのようなことから、東北地区の先生方に福島県での開催を支持して頂き、僥越ではありますが第125回日本小児科学会学術集會をお世話させていただくことになりました。

東日本大震災はまさに未曾有の出来事で、被災当初は暗中模索、そこから海図なき航海に旅立つ覚悟で、「走りながら考え、立ち止まることなく実行する」が続きました。それから10年が経過し、東日本大震災・原発事故の小児の健康への様々な影響が見えてきて、これまで歩んできた行程の良否が明らかになりつつあります。東日本大震災の後、地震、噴火、豪雨・台風、新興感染症など、次々と大災害に見舞われていますが、どのような状況でも歴史と経験から学び、より良い進路を探り、困難を克服してきていると思います。小児医療においても、少子高齢化、疾病構造の変化、医療の地域格差、貧困、虐待など様々な問題はありますが、大災害を乗り越えてきた経験を活かし、英知を結集すれば、子どもたちの幸せな未来に繋がれると信じ、そのような学術集會を目指したいとの思いで、テーマを「すべての子どもたちの幸せな未来のために」としました。

令和2年度 研究助成事業 選考結果

① 小児医学領域全般に関する研究費助成 (Research Grants for Pediatrics)

齋藤 敦	広島大学大学院医系科学研究科 分子細胞情報学 牽引准教授	小児体膜貫通型転写因子OASISの機能制御による 小児癌の新規治療戦略構築
鳴海 覚志	国立成育医療研究センター 分子内分泌研究部 基礎内分泌研究室長	先天性内分泌疾患に関わる転写因子群の生理・病理解析 -次世代タンパク質相互作用解析技術を用いた研究-
鈴木 健史	名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学講座 大学院生	ドラベ症候群の歩行障害に対するL-DOPAの無作為割り付け臨床試験
木村-吉田千春	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター研究所病因病態部門 主任研究員	神経管閉鎖に働く特異な表皮細胞を誘導する新規因子の探索
川内 大輔	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 室長	小児悪性脳腫瘍である髄芽腫の進展機序の解析/ 副題: NSD1遺伝子変異を持つ脳疾患の理解と治療法の確立を目指して
浜田奈々子	愛知県医療療育総合センター 発達障害研究所分子病態研究部 研究員	細胞周期制御遺伝子群の異常を原因とする 小頭症と発達障害の病態メカニズム解析
関口 昌央	東京大学医学部附属病院小児科 助教	間葉系幹細胞の胚葉起源に基づくユーイング肉腫の 新規分類法の確立とその応用

② アサヒグループ食品研究助成金(乳幼児栄養に関する研究費助成) (Asahi Group Foods (Wakodo) Grants for child nutrition)

川瀬 恒哉	名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 病院助教	胎児から新生児へのアミノ酸代謝変化とその異常 -生後の神経幹細胞機能との関わり-
菅沼 広樹	順天堂大学医学部小児科学講座 助教	新生児低酸素性虚血性脳症における脂質栄養の役割 -脂肪酸代謝産物の網羅的解析による検討-

③ 小児の社会医学的研究(疫学・統計含む) (Research Grants for Social Pediatrics)

春松 敏夫	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 小児外科学分野 特任助教	ニーズアセスメントにより国際格差を是正する 小児内視鏡外科医育成プログラムの開発と世界展開
半谷まゆみ	国立成育医療研究センター研究所 社会医学研究部 研究員	新型コロナ流行に伴うこどもの精神的健康に関する全国調査
津川 毅	札幌医科大学医学部医学科 小児科学講座 講師	ロタウイルスワクチン定期接種化: 真の安全性・有効性・選択圧の 評価モデル構築と流行株の変化
吉年 俊文	琉球大学大学院医学研究科 臨床研究教育管 理学講座 非常勤研究員 沖縄県立中部病院小児科 常勤小児科医員	幼児肥満を規定する医学・社会経済的因子の解明
福田 龍将	琉球大学大学院医学研究科 救急医学講座 准教授	夜間・休日等の時間外の小児救命医療と転帰の検討: 救命救急機能を維持した働き方改革に向けて
岡本 孝之	国立大学法人北海道大学 北海道大学病院小児科 助教	小児特発性ネフローゼ症候群 Personal Health recordシステム開発
佐々木満ちる	鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科医員	知的障害を伴う脳性麻痺児のQOL評価観点開発のための質的研究

④ 学校健診・診療情報データベース利用による研究助成金 (A Grant for School Health Record/ Electronic Medical Record Database Study)

松本 尚美	岡山大学大学院医歯薬総合研究科 疫学・衛生学分野 特任助教	COVID-19流行下における小児科日常診療への影響の解析
樋口 洋介	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター小児科 医師	日本の思春期時期の推定 -思春期は低年齢化しているか-

海外留学フェロシップ(小児科領域全般)



東京大学医学部附属病院小児科学講座 特別研究員 国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第一部 研究生
大久保 真理子

◆ラミノパチーに対する遺伝子治療法の開発

この度は海外留学フェロシップに採択いただき、心より感謝申し上げます。私はこれまで筋疾患の診断と病態解明に取り組んできました。遺伝学的解析技術が進歩し、様々な遺伝性筋疾患の原因遺伝子が解明されてきましたが、治療法の開発はまだ十分とはいえない状況です。留学先ではラミノパチーという筋ジストロフィーの遺伝子治療を中心とした治療法開発を行う予定です。遺伝子治療は他の遺伝性疾患にも役立つものであり、今後のわが国の小児医療の発展に貢献していきたいと思えます。

海外留学フェロシップ(子どもの心の問題)

福山幸夫アワード



国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所知的・発達障害研究部 研究生

上田 理誉

◆自閉スペクトラム症の診断バイオマーカー開発の試み

◆Atypical gamma functional connectivity pattern during light sleep in children with attention deficit hyperactivity disorder Brain Dev 2020 ; 42 : 129-139

この度は、福山幸夫アワードならびに海外留学フェロシップにご採択いただき、誠にありがとうございます。私は、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的発達障害研究部(部長:稲垣真澄先生)に所属し、多くの指導者の方々に恵まれ、このような栄誉を頂きましたことに深く感謝申し上げます。さらに、留学のご支援を賜りますことも身に余る光栄に思えます。留学先では確実な研究成果を上げられるよう、日々精進したいと思います。

小児医学研究振興財団アワード和文誌



奈良県立医科大学附属病院 小児科

藤野 真帆

◆NICUにおける抗菌薬適正使用プログラム 日本小児科学会雑誌2020;124(9):1374-1379

この度はこのような名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。本論文では、小児感染症専門医のいない市中病院のNICUにおいて抗菌薬適正使用プログラムを導入し、その効果について検討いたしました。新生児医療における抗菌薬適正使用に関して少しでも貢献できましたら幸いです。本論文の作成にあたり箕輪秀樹先生をはじめご指導いただいた先生方に心より感謝申し上げます。この受賞を励みに今後も精進してまいります。

小児医学研究振興財団アワード欧文誌



ふかざわ小児科 副院長

深澤 光晴

◆Previous antibiotic use and the development of Kawasaki disease:

A matched pair case-control study 2020 ; 62(9):1044-1048

この度は、我々の論文を評価いただき、誠にありがとうございます。このようなアワードを受賞することができ、本当にうれしく思います。この論文は、我々のクリニックで行った症例対照研究で、川崎病患者において、過去の抗菌薬暴露歴が多いことを示したものです。一クリニックで行った研究ですが、このように評価いただける結果を出すことができたことは、今後の診療、研究の大きな励みとなります。論文作成、掲載にあたりご協力いただいた皆様にも併せて御礼申し上げます。

福山幸夫アワード



横浜市西部地域療育センター 理学療法士

伊東 祐恵

◆乳児期の粗大運動発達がおくれた自閉スペクトラム症児の特徴について 小児の精神と神経 2020;59(4):373-383

この度は、身に余る名誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。本論文は、地域療育センターの理学療法士として乳児期の粗大運動発達のおくれを伴う自閉スペクトラム症児に関わる中で、自閉スペクトラム症の特性や感覚の問題が粗大運動発達の獲得のおくれに影響していたことを報告しました。本研究と論文作成にあたり、ご指導頂いた今井美保先生、星山麻木先生をはじめご協力を頂いた先生方に心より感謝申し上げます。今後もこの受賞を励みに精進を重ねていきたいと思えます。

研究助成金

- ① 小児医学領域全般に関する研究費助成 (Research Grants for Pediatrics)
② アサヒグループ食品研究助成金(乳幼児栄養に関する研究費助成)
③ 小児の社会医学的研究(疫学・統計含む)
④ 学校健診・診療情報データベース利用による研究助成金

※(一社)法人健康・医療・教育情報評価推進機構が保有する学校健診情報データおよび電子カルテ診療情報のデータベースを用いた臨床研究。

海外留学奨学金

- ① 小児医学領域全般に関する研究 総額350万円
② 子どもの心の問題に関する研究 1件150万円

優秀論文アワード

日本小児科学会、日本小児神経学会、日本小児精神神経学会及び日本小児心身医学会機関誌に掲載された原著論文のうち、優秀論文の筆頭著者を褒賞。

※応募要項は令和3年6月上旬に財団ホームページにてご覧いただけます。



賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

- 赤司 俊二 旭 壯一郎 芦田 明 安次 嶺 雄 足立 雄一 熱田 裕 鮎沢 義夫 新垣 浩一 荒川 正 有賀 一 飯島 幹 飯塚 知子 五十嵐 ケミ 石井 アケミ 石井 尚 石井 正浩 石倉 健司 石崎 朝 位田 忍 井田 博 井田 孔明 市橋 光 市橋 梓 伊津見 睦 伊藤 悦朗 伊藤 秀一 伊藤 末志 伊藤 進 伊藤 辰夫 伊藤 保彦 伊藤 雄平 稲垣 治 稲垣 由子 井原 健二 井原 幸子 今村 俊彦 今村 孝 岩田 敏力 岩田 二郎 内田 弘子

賛助会員(法人)

- アサヒグループ食品株式会社
エーザイ株式会社
MSD株式会社
杏林製薬株式会社
Story of the tortoise株式会社
第一三共株式会社
帝人ファーマ株式会社
株式会社ナチュラルサイエンス
Meiji Seika ファルマ株式会社
医療社団法人 メディカル・プロ

協賛企業

- アサヒグループ食品株式会社
アステラス製薬株式会社
株式会社オグラ
JCRファーマ株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
大日本住友製薬株式会社
日本マクドナルド株式会社
ノボルディスクファーマ株式会社
マルホ株式会社

寄付者

松井 智子

賛助会費は、所得税控除または税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

http://www.jfpedres.or.jp/

『子どもの世紀』について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理大臣ご在任中にお書きいただいたものです。

編集後記

新型コロナウイルス感染症による影響を受けたにもかかわらず、令和2年度も例年に劣らず立派な研究課題、海外フェロシップ受賞者、優秀論文が採択されたことは喜ばしいことです。感染防止の要と目されるワクチンがわが国でも漸く開始されました。終息に向かうことを願っています。

(常務理事 五十嵐 隆)